

北海道日本ハムファイターズ監督

栗山英樹

札幌市長

上田文雄



# ファイターズが 札幌にもたらす力とは



2012年、北海道日本ハムファイターズはリーグ優勝を果たし、私たちに夢と感動を届けてくれました。今回の特集では、就任1年目にしてチームをリーグ優勝に導いた栗山監督と上田市長との対談を紹介。ファイターズが札幌にもたらす力に迫ります。

優勝パレード  
夢が現実



— 11月24日に行われた優勝パレード、本当に盛り上がりましたね。

**監督** 夢がかなって本当にうれしいです。まさか就任1年目に実現できると思っていませんでしたから。沿道の皆さんからの愛情ある言葉が、直接心に響いてきて、本当に感動しました。

**市長** 私も実行委員としてパレードに参加させていただきました。青空に舞

う紙吹雪を仰ぎ見ながら、みんなニコニコ。素晴らしかった。2千人以上の市民ボランティアの方も、パレードを盛り上げてくれました。

**監督** ボランティアの皆さんは、自分の役割を果たしながらも、笑顔を見せてくれていました。

— 市民の皆さんは、地面を埋め尽くした大量の紙吹雪の後片付けにも、率先して取り組んでいましたね。

**監督** ええ。ツル（鶴岡選手）と賢介（田中選手）が「地面を埋め尽くした紙吹雪を、市民の皆さんが瞬く間に全

北海道日本ハムファイターズ監督  
栗山英樹さん

1984年にヤクルトスワローズに入団。野手として活躍するも、けがや病気が重なり、90年に引退した。その後は、野球解説者などとして活躍。2011年に、ファイターズの監督に就任。現在の自宅は夕張郡栗山町。東京都出身。51歳。

札幌市長  
上田文雄



進行  
橋本登代子さん  
(有)ボイスオブサッポロ  
アナウンサー





優勝パレードの来場者はおよそ10万人。栗山監督は「色とりどりの紙吹雪で北海道の大地を埋めたい」という夢を実現した。

部片付けてしまうんですよ！」とパレードの前に話をしてくれましたが、本当でしたね。紙吹雪の中には、応援メッセージが書かれているものもあったので、稲葉（選手）や翔（中田選手）は記念に持ち帰っていました。みんな心の底から喜んでいましたね。

### 地域の支えがあるからこそ、野球ができる



——札幌ドームで試合をするとき、特にプレーに力を感じます。

**監督** そうですね。日本シリーズ中、敵地で2連敗した後、札幌に戻って2連勝できたとき、北海道が私たちに与えてくれる力の大きさを実感しました。試合中、自分の采配に自信が持たないこともあるのですが、札幌の皆さんは、そうした不安な気持ちを勇気に変え、さらに「一歩踏み出せ」と後押しをしてくれる。そんなパワーがあると感じます。

——逆に札幌市民も、ファイターズからパワーをもらっていますよね。

**市長** そうですね。「試合の結果どうだった？」と、多くの市民にとって共通の話題になっていることは非常に大きい。人々のつながりを広げるきっかけになっていますね。こうして生み出されたまちの一体感は、札幌をさらに魅力的なまちにする原動力になっていると思いますよ。







胴上げの瞬間。リーグ優勝は、北海道に本拠地を移してから4度目となる。



——ファイターズは、札幌のまちづくりに協力していると聞いています。  
**市長** そうですね。札幌市と「まちづくりパートナー協定」を結び、幅広く活動していただいていますし、「さぼーとほっと基金」の制度を通じて寄付をいただき、東日本震災で被災した福島の子どもたちを球場に招待することもできました。市の仕組みを活用して選手や球団の皆さんの気持ちをまちに届けていただいています。

**監督** 地域の皆さんの支えがなければ、私たちは野球ができません。ファイターズは、地元を大切にする意識が強いチームですので、こうした活動にも積極的な選手が多いですね。2013年からは、全道179市町村のまちおこしに10年計画で協力する「応援大使」の取り組みも始まるんですよ。

——監督のお話から、北海道への愛が伝わってきます。

**監督** 北海道のどの市町村も、個性ある素晴らしいまちばかりで、本当に大好きです。せっかく北海道を本拠地としているのですから、大自然や美しい四季の移り変わりを楽しみたい。夏には山で山菜採りをし、冬には雪かきをやって、春になって、さあ野球やるぞ、というふうだね。

**市長** 今はまさに雪の季節ですけれども、雪かきをする体力がない一人暮らしの高齢者が増えています。市の課題の一つになっています。そこで、選手から子どもたちに「雪かきをやろうよ」と呼び掛けていただけたらどうでしょう。

### 企業と市が手を携え、地域貢献を進める仕組み **まちづくりパートナー協定**

札幌をより魅力あるまちにすることを目指し、市と企業が力を合わせてまちづくりに取り組むための協定です。現在、ファイターズや日本ハム北海道販売をはじめ、計9団体が市と協定を結んでいます。

#### ファイターズと市が行った取り組み

- 新一年生にランドセルカバーを配布(2012年～2013年)
- 聴覚に障がいのある方120人を試合に招待(2011年)
- 選手の管理栄養士による食育講座(2012年) など



交通事故を予防するランドセルカバーは、マスコットキャラクター「B・B」が描かれており子どもたちにも好評。

### 寄付でまちづくりを支える仕組み **さぼーとほっと基金**

市民からの寄付を、市民活動団体に助成し、まちづくり活動を支援する仕組みです。被災者を支援する市民活動にも助成しています。

基金を通じて集まった寄付金を活用して招待した福島の子どもたち。熱心に選手に声援を送っていた。



「まちづくりパートナー協定」「さぼーとほっと基金」に関するお問い合わせは、市民活動促進担当 ☎211-2964

## 読者プレゼント

全て栗山監督の  
 自筆サイン入り!

- ①「レプリカユニフォーム」を3人に!
- ②「色紙」を3人に!
- ③「ポスター」を3人に!

応募  
 方法

はがき、ファクス、Eメール。住所、氏名、年齢、電話番号、本誌の感想、希望賞品名を記入し、1月23日(水)(消印有効)までに広報課(1ページ)へ。多数時抽選。





札幌ドームで行われたクライマックスシリーズでは、3連勝でリーグ優勝を決めた。日本シリーズでは惜しくも敗れて日本一を逃したものの、まさに感動を与えてくれた。

いですね。「ファイターズの選手みたいに雪かきを頑張るぞー」と言って、困っている人のために、子どもたちが活躍する。こういう文化ができると思いますね。  
**監督** そうですね。他の地域ではできないことだし、誇りを持ってやれるといいですね。

### 感動の涙は推進力になる



——監督はどのようなところに北海道の魅力を感じますか？

**監督** 何より「人」ですね。日本シリーズの4戦目、札幌で勝利した瞬間、ファンの皆さんが、家族のことにように感動してくれていた光景が目焼き付いています。こうした場面を目の当たりにすると、本当に素晴らしい人たちに支えられていると感じ、感極まっています。

**市長** 監督の潤んだような目には、訴え掛ける力がありますね。中田選手が不振に悩んだ時も「信じているぞー」と、目が物語っていて、すてきでした。

**監督** 私、泣き虫監督なんて呼ばれていますけど、泣いているわけではないんですよ。勝手に涙が出てくるだけなんです(笑)。「感動の涙は推進力になる」と信じていて、選手にも話しています。これはスポーツに限らず、どんな場面でも言えることだと思います。

### 2013年に向けて



——監督、2013年シーズンの抱負を聞かせてください。

**監督** 日本一を目指して、何が何でも勝つんだ、という気持ちで臨んでいきます。パ・リーグは、来シーズンも恐らく大混戦になります。そうした場面に直面したとき、最後は「勝ちたいという気持ち」とか、「札幌の皆さんの力」とか、理屈では表せないことが、最大の力になると思うのです。大切な場面でファンの皆さんに後押ししてもらえるように、真摯にプレーをし続けていきます。

——市長からもメッセージをお願いします。

**市長** 市政の課題はいろいろありますが、スポーツ、文化・芸術などが、ゆるる面で、市民一人一人が活躍できる「舞台」、つまり、まちの基盤をしっかり築いていくことが私たちの使命だと思います。道都として、北海道全体をさらに盛り上げていけるよう、私も力の限りを尽くします。市民の皆さん、ファイターズと一緒に頑張りますよ！



市民の笑顔があふれるまちを表す「サッポロスマイル」のバッジを身に着け、2013年の飛躍を誓った。

対談の様子は1月からインターネットで配信する予定です。

札幌市長のページ

検索